

市民・地域・行政の輪

川内市男女共同参画推進事業
北京JAC開催！

1月31日(土)・2月1日(日)

の2日間にわたって、「川内発！家庭・学校・地域で奏でるトライアングル」をテーマに、【北京JAC九州・山口・沖縄第4回シンポジウム in 川内】が市民会館で行われました。

初日のシンポジウムでは、

コーディネーターに北京JAC九州・山口・沖縄代表の三隅佳子氏を迎え、シンポジストの朴木佳緒留氏(神戸大学発達科学部教授)が、最近議論が交わされている『ジェンダー』について分かりやすく説明し、

たもつゆかり氏(オフィスピュア代表)は、自身の体験から、

現在、男女共同参画社会への意識改革を社会に呼び掛けるようになったいきさつを語り、成川幸太郎氏(ブラッセだいわ日南店店長)は、元川内市男女共同参画推進協議会委員として、男女共同参画社会の実現のために、どのような取り組みをしたのか、またその事例から、今後の課題の多さなどを熱く語りました。

2日目は、ワークショップが開催され、6つの団体が各グループに分かれ、それぞれのテーマについて事例発表と意見交換を行いました。

地元グループが主催した、「川内ぱれっと発！私のまのジェンダー考」では、寸劇「介護は誰の仕事？」を通して、根底にある慣習からの男女の差別を、コミカルに分かりやすく伝えていました。

参加者から「介護はやはり女性でなくては！」の声。たもつ氏より、「細やかなケアのできる男性もいますよ。女性だからと決め付けないで、家族で話し合い、社会支援を得て、誰もが協力し合える環境が大切です。」との応答に、会場は大きくうなずき、意識改革の確かな前進を感じました。

今回のシンポジウムの開催は、わたしたち川内市民にとって、より豊かで暮らしやすい社会をつくるために貴重な体験でした。さらに前進、個性・個人が尊重される男女共同参画社会の実現へ…

用語解説

■ 北京JAC

1995年、北京で開催された第4回世界女性会議を契機に誕生したNGOグループです。ネットワークを作り、学習会や情報交換、政府や地方自治体への政策提言を行っています。

■ メンズリブ

男性解放運動。男性の生き方を問い直し、男らしさからの解放を！と、全国で運動が盛んになっている。鹿児島県でも平成14年10月、「鹿児島メンズリブ研究会」が発足した。

事務局 ☎099-812-4885

■ ウーマンリブ

女性解放運動。19世紀後半～20世紀前半、全世界的な女性運動の高まりがあった。これは、法律上の不平等を問題とし、教育権・財産権・参政権を要求した。この時期のキーワード「男女平等」。

1960年代後半、アメリカから広がった新しい女性運動の波(ウーマンリブ)は、同一賃金の要求・雇用機会均等要求・女性が性的な対象になっていることへの異議申し立てなどを行った。それ以降、「女性解放」がキーワード。

編集後記

男女共同参画という言葉を知り数年が経過、本市も「男女共同参画基本条例」を施行して1年余りが過ぎました。

今回、皆さんからのご意見・アンケートを編集し、掲載する中で、個人の考え、社会・生活面での男女の不公平さを感じていることが伝わってきました。

子どもを育てていく中で、子ども自身が何事にも向き合う気持ちを大切にするために、いつも口にしていくことがあります。

「何でもやってみなさい！男も女も

関係ないよ。」と…。

今、私たちにできることは、人として男女平等で共に参画し、自然体で生きやすい社会を築き、次世代を担う子どもたちに、その社会をつなげていくことではないでしょうか。

(有村)

男女共同参画基本条例と、この情報誌「とらいあんぐる」が、本市の双子として誕生し、やっと1歳になりました。2年間の編集作業は、しんどい・大変・もういや！でも、出来上がった瞬間、うれしい・楽しい・本当に子育てと同じ！

2歳になる頃には、もっと大きくなっていることを期待して…。

(村尾)

この情報誌に関するご意見・ご感想、取り上げたいことなどありましたら、下記までご連絡ください。

編集発行

〒895-8650 川内市神田町3番22号

川内市役所 企画経済部 企画課 男女共同参画係

☎235111(内線482) FAX205570

Eメール: gender-pl@sendai-net.jp